

平成25年6月 経営協議会議事録

I. 日 時 平成25年6月14日（金） 14時00分～16時35分

II. 場 所 けやき会館レセプションホール（3階）

III. 出席者 齋藤学長、赤田、有馬、犬養、黒木、島田、船橋、
山本、長澤、徳久、嶋津、池田、北村、木庭各委員
（欠席：井上、加賀見、佐久間、桜田、堀、宮崎各委員）
陪席者 来栖監事

議事に先立ち、学長から西川監事のご逝去について報告があった。

IV. 前回経営協議会議事録について
原案のとおり承認された。

V. 審議事項（○：学外委員、◎：学内委員）

1. 平成24業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）について

学長から、平成24業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）について審議願いたい旨提案があった後、山本理事から資料に基づき説明があり、以下の質疑応答を経て、審議の結果、承認された。

- 当報告は文科省に提出後、公表されるのか。
- ◎ 文科省及び千葉大学のウェブサイトで公表される。

2. 平成24年度決算（案）について

学長から、24年度決算（案）について審議願いたい旨提案があった後、池田理事から資料に基づき説明があり、以下の質疑応答を経て、審議の結果、承認された。

- 運営費交付金は病院を除いてどのくらい減っているのか。
- ◎ 対前年比で13億5000万円減っている。ただし、自己収入増や国からの外部資金獲得により、一般運営費交付金の人件費以外は逆に増えている。
- 病院の収入が増加した分はどのように使われるのか。
- ◎ 病院経営の充実を図るため、病院の将来構想などに充てる予定である。
- 他大学のコスト比較に留まらず、地域経済への貢献度、新技術開発件数、特許取得件数、司法試験合格者など大学の活動の成果や効果の比較もしていただけると一層よい。
- ◎ 今回の資料は、本学と他大学の財務状況の比較を目的として作成したものを参考としてお示ししたものである。ご指摘を踏まえ、今後検討していきたい。

3. 平成26年度概算要求（案）について

学長から、平成26年度概算要求（案）について審議願いたい旨提案があった後、池田理事から資料に基づき説明があり、以下の質疑応答を経て、審議の結果、要求事項の調整等について学長に一任したうえで、要求することが承認された。

○ 法経学部の名称を変えることで、何が変わるのか。

◎ 1学部1学科として、中に入ってから学生にコースを選ばせることとしている。法経学部では「政」が見えないため、中身を体した名称として、法政経学部としている。

VI. 報告事項（○：学外委員、◎：学内委員）

1. 「千葉大学の目指すところ2013」について

学長から、「千葉大学の目指すところ2013」について、資料に基づき報告があった。

2. 革新予防医科学共同大学院の設置に向けた連携協定の締結について

山本理事から、革新予防医科学共同大学院の設置に向けた連携協定の締結について、資料に基づき報告があった。

○ 長崎大学は感染症の研究で業績を挙げているが、共同大学院には感染症が含まれていない。千葉大学は免疫をやるので長崎大学と一緒にやっても良いのでは。

◎ 各大学の事情もあり、今回の連携では、必ずしも各大学の一番強いところが参画しているという訳ではない。今後も協力体制については、種々考えていきたい。

3. 平成26年度千葉大学個別学力検査等の日程について

長澤理事から、平成26年度千葉大学個別学力検査等の日程について、資料に基づき報告があった。

4. 平成25年度科研費（補助金分・基金分）の配分について

徳久理事から、平成25年度科研費（補助金分・基金分）の配分について、資料に基づき報告があった。

○ 看護学研究科のように査読を経ていいものにしてから申請すると、かなり採択率が上がる。千葉大学看護学研究科のようなレベルの高いところであれば、これから先も伸びると思う。

5. 研究大学強化促進事業について

徳久理事から研究大学強化促進事業について、資料に基づき報告があった。

○ 採択のためには、大学のサイズが中位であることを活かしたデータを出すべき。

◎ 東大などの大規模校ではできない部分を強調して、アピールをしていきたい。

○ 千葉大学は若手の研究が非常に良い。若手を支援していることをアピールするのは審査において説得力がある。

6. 六大学国際連携機構-ASEAN 大学連合副学長会議について

徳久理事から、六大学国際連携機構-ASEAN 大学連合副学長会議について、資料に基づき報告があった。

以上